

拉致被害者関係市連絡会の金正恩国務委員長へのメッセージ

親の世代の被害者家族が御健在のうちに、一日も早く拉致被害者の即時、全員の帰国を決断していただきたい。そのことがなければ日朝間の関係改善は進みません。

私たちは、拉致被害者地村保志、富貴恵さん御夫妻が帰国された福井県小浜市、曾我ひとみさんが帰国された新潟県佐渡市、蓮池薫、祐木子さん御夫妻が帰国された新潟県柏崎市、3市の市長で構成する「拉致被害者関係市連絡会」です。

私たちは、曾我さんのお母様のミヨシさん、新潟県新潟市で拉致された横田めぐみさんを含む被害者の即時帰国、全員帰国を求めています。

さて、長年に渡り、拉致被害者の救出を求めてきた親世代の御家族の皆さんは、既に御高齢となり、一日も早い再会と、残された人生の中で、一日でも多く家族と一緒に静かな日常生活が営めることを切望しながら、祈るように毎日をお暮しになっています。

去る2021年4月3日、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会と北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会は連名で、委員長に対し、「全拉致被害者の即時一括帰国を決断して頂きたい」という2回目のメッセージを発出しました。

そして、「このメッセージには期限があります」と宣言しました。つまり、四半世紀の間、救出運動を続けてきた親の世代の被害者家族(横田さんのお母様である早紀江さんや有本さんのお父様である明弘さん)が、被害者と抱き合うことなしに国交正常化に賛成することができないことや、それが実現しなければ、大多数の日本国民は、貴国との関係改善に反対することになるとし、「もうこれ以上この問題の先送りは許されない」という不退転の決意で、問題の早期解決を訴えています。

私たち「拉致被害者関係市連絡会」3市長としても、拉致被害者御家族が40年以上にも渡り、引き裂かれてきた不幸な現実を一日も早く解消してほしいという切実な思いを重く受け止め、このメッセージを全面的に支持・支援するものであります。

私たちは日朝間の不幸な過去を清算し、一日も早く国交正常化を望んでまいりましたが、拉致問題の未解決という現実をもう、これ以上、放置することはできません。残された時間は、刻一刻と少なくなっています。我が国の菅義偉総理大臣は、委員長と直接向き合って拉致問題を解決すると繰り返し表明しています。一日も早く日朝首脳会談に応じてください。

貴国による拉致被害者の即時、一括帰国の決断こそが、両国間の平和と、未来に向けた新たな第一歩につながっていくことを改めて強く訴えるものであります。

金正恩国務委員長 殿

2021年6月30日

新潟県柏崎市市長

櫻井 雅浩

新潟県佐渡市長

渡辺 竜五

福井県小浜市長

松崎 晃治